

経営比較分析表（令和2年度決算）

神奈川県大和市 市立病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	400床以上～500床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	31	対象	透未訓方	救臨が災地輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
240,998	27,111	非該当	非該当	7：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

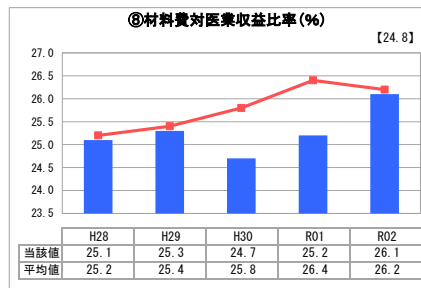
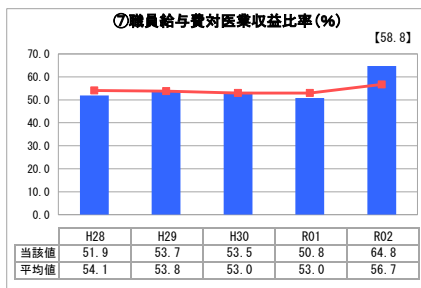
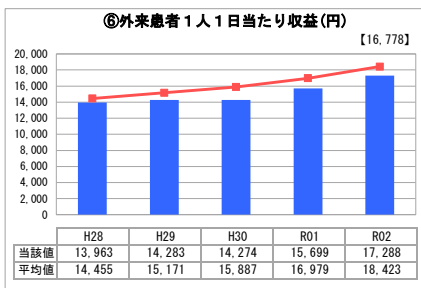
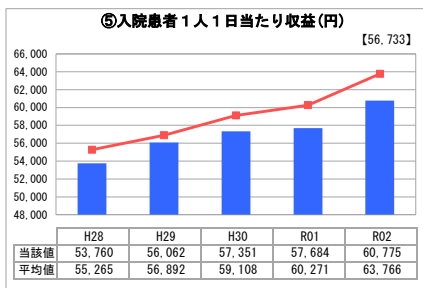
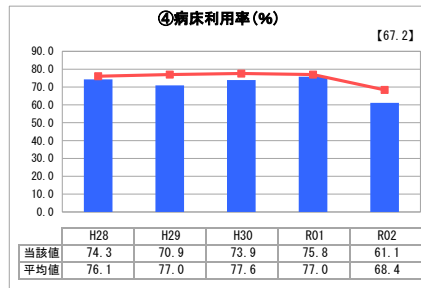
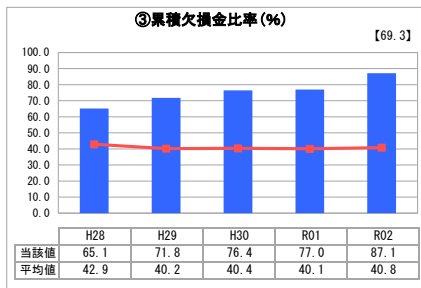
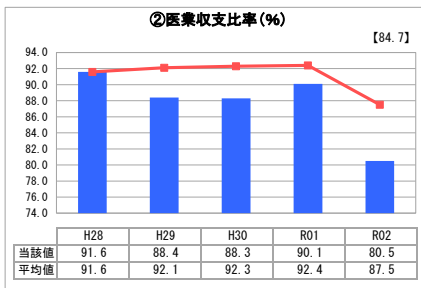
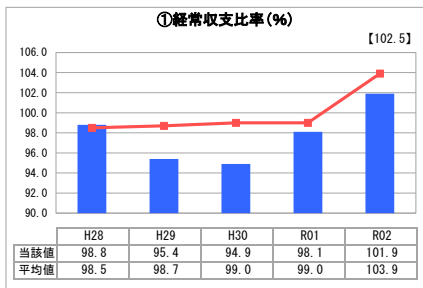
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
403	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	403
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般＋療養）
372	-	372

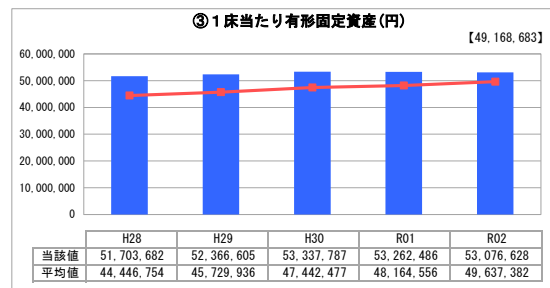
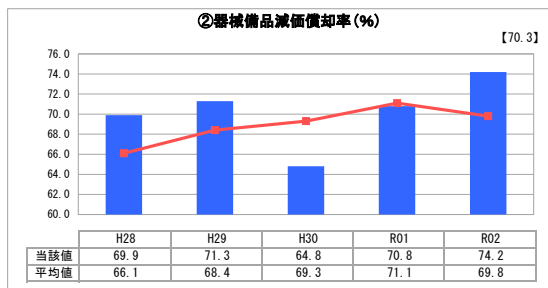
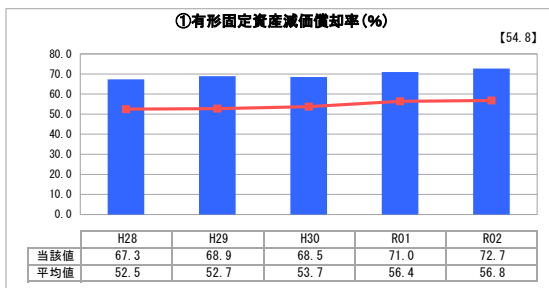
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

本院は長年にわたり、救急医療や災害医療及び小児周産期医療の中核病院として、地域の医療需要に応えてきました。平成24年には地域がん診療連携拠点病院、令和元年には地域医療支援病院の承認を受け、利用者が身近な地域で医療等が受けられるよう整えています。

本院は、神奈川県地域医療構想県央構想区域における基幹病院の一つとして、急性期医療の拠り所としてあり続けることができるよう医療体制を充実するとともに、地域医療支援病院として、この地域における地域の医療機関等との連携を一層深めつつ、紹介・逆紹介を推進していきます。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

入院・外来ともに患者1人1日当たり収益は上昇したものの、病床利用率はコロナ禍の影響も大きく下降しています。経常収支比率は、新型コロナウイルス対策補助金等により100%を超えたものの、医療収支比率は前年度と比べて大きく下降しており、病院経営は大変厳しい状況です。

職員給与費対医療収益比率は前年度一旦下降したものの、令和2年度はコロナ禍による医療収益の減少等により平均値を上回っております。

診療報酬請求の適正化等の確認を行うなど、収支改善に努めています。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産全体、器械備品の減価償却率及び1床当たり有形固定資産とも平均値を上回っている状況です。特に、有形固定資産減価償却率から平均よりも建物全体の老朽化が進んでいることがわかります。

今後、安全性を担保しつつ施設の長寿命化を図ることができるよう、施設保全計画に基づき適切な施設改修を順次行っていきます。

全体総括

令和2年度は地域の基幹病院としての責務を果たすべく、重点医療機関病院等として新型コロナウイルス感染症の疑似症患者や中等症患者の治療を行うことで補助金収入が大幅に増額する一方で、診療制限等により患者数も減少し、それに伴い診療収益が減少しました。

今後も、大和・綾瀬地域における唯一の重点医療機関として、新型コロナウイルス感染症対応の拠点病院としての機能を担っていきます。

こうしたコロナ対応に加えて、多くの患者さんに信頼される地域の基幹病院として存在し続けていくためにも、必要な医療提供体制を整えるとともに、収支改善に向けた分析を行い、病院経営が安定するように努めてまいります。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。